

緊急告知

# フレイフレー山田 ー忘れないための映像記録ー

(2011/日本/日本語/55分)

2011年4月29日、  
応援団は山田の空の下、  
全力でエールを送る!



2011年3月11日、東日本大震災は、私たち一人一人に「自分には何ができるのか」「自分は何をすべきなのか」という問いを強く突きつけました。

西表島でも、支援物資を送る人、募金をする人、瓦礫撤去のボランティアに参加した人、自分の職能を活かしたチームに加わって活動した人など、それぞれに「できること」を模索してきました。

東京在住の映像カメラマンである御木茂則(みき・しげのり)さんが「できること」として考えたのは、「映像を撮ること」で東北を支援できないかということでした。

この作品は、津波の被害に遭った岩手県山田町と交流のあった法政大学応援団が、山田町の要請を受けてボランティア慰問に訪れた際の記録映像をまとめたドキュメンタリー映画です。

エコツーリズムセンター会場では、「法政大学応援団、岩手県山田町へ」「団員たちの思い」「山田の夏」の3部構成の全編(約55分)を上映します。上映後、監督の御木さんを囲んでのゆんたく会も予定していますので、映画のこと、東北のことなど、なんでも聞いて下さい。

多くのみなさまのご来場をお待ちしています。

主催・西表島エコツーリズム協会(0980-85-6331)

上映会日程(7/5現在決定しているもの)\*各地域・学校での巡回上映のご希望があればお申し出ください。7/25まで対応できます。

- 7月11日(水)夜8時～ 西表島エコツーリズムセンター(開場7時半)全編上映
- 7月17日(火)夜8時～ 西表島エコツーリズムセンター(開場7時半)全編上映
- 7月19日(木)(時間未定)白浜小学校(40分ほどのショートバージョンの上映)

いずれも入場無料/上映後ゆんたく会あり/会場にて山田町の復興を応援する義金を受け付けています。  
なお、YouTubeで予告編をご覧いただけます。(『フレイフレー山田』で検索してみてください)



「東北に黒旗を送ろう!大作戦しんぶん」改め  
復興支援『すけきた』  
「すけきた」とは  
宮城県登米市あたりの言葉で  
「ボランティアに来たよ」という  
意味である

「すけきた」とは  
宮城県登米市あたりの言葉で  
「ボランティアに来たよ」という  
意味である

被災地を「応援」する姿を追った。当初は荒廃した町の光景を撮ろうとしたが、「東北以外に見せる『期待された映像』だ」と葛藤。「東北の人たちが見たいと思える映像」を目指した。震災を巡る映画の現状を、映画評論家の佐藤忠男氏はこう語る。「何をしておけばよかったか、何を撮るべきなのか」という自問自答が続いていて、撮る側も撮られる側も考え込む姿が映し出されている。決定的な作品が生まれる準備段階だから焦点は定まらない。しかしいま定まると、むしろつまらないように感じます。」(高田英美、西田健作)



「フレイフレー山田」

■考え込む姿映し出す  
若い世代の向き合い方という点では、御木茂則監督の「フレイフレー山田」がある。法政大学応援団員が

## ふりかえり企画

### RQ活動年表

東北の各拠点でRQの活動が理解されるに従い、食材をわけて頂いたり催し物に誘って頂くようになり、地域との交流が深まってきました。

生活再建支援  
(以降現在に至る) ↓

- 7/5 「復興あめ」誕生の記事が読売新聞に掲載される  
「こどもゆかたプロジェクト」ゆかた配布開始
- 7/14 歌津VCにソーラーパネル設置  
RQボランティアバスが30人乗り!
- 7/15 小泉中学校避難所で夕食の炊き出し(8/13まで)  
生活物資配達終了、デリバリーチームは「地域支援チーム」として新たに発足

次回「大暑朔日号」に続く

